



木地屋と鍛冶屋 熊野百六十年の人模様



桐村英一郎 [元朝日新聞論説副主幹]=著

定価：本体1200円 [税別] / A5判並製 / 96頁

- 主要目次**
- 第1話 椎茸長兵衛——祖神の縁起を伝え持つ
 - 第2話 金借り道——庄屋まで一札入れる
 - 第6話 木地亀蔵——長兵衛とつながる糸は
 - 第8話 新宮鍛冶——入鹿、三輪崎鍛冶が合流
 - 第9話 大川増蔵——新宮の川原町で開業 ほか全11話

オールカラー
熊野の写真
を多数掲載

山の漂泊民と炎の職人、その末裔たちの現在

高貴な親王を祖とし、良木を求め、山々を渡り歩きながら椀や盆を作った木地屋。火と水、風を用いて鉄を鍛え、さまざまな生活、仕事の道具を作った鍛冶屋。幕末から近代にかけて、熊野の地で活躍した二人の木地屋と一人の鍛冶屋に焦点をあて、彼らの末裔たちの現在までを元新聞記者が追った人間ドラマ。

和歌山県・三重県の地方新聞各紙に、著者インタビューや本書の紹介記事が掲載の予定です。

好評既刊

木地屋幻想 紀伊の森の漂泊民

(20年6月刊)

熊野の山中に、幻の漂泊民を追う！

木の国・紀伊の深い森にかすかに残された木地屋の足跡、言い伝えをたどり、近代の訪れとともに消えてしまった木地屋の幻影を追った一冊。



株式会社 七月社

☎182-0015 東京都調布市八雲台 2-24-6 電話 / FAX : 042-455-1385

七月社	帳合・番線	桐村英一郎=著 木地屋と鍛冶屋 熊野百六十年の人模様 A5判並製 / 96頁 / 本体1200円 / 978-4-909544-23-0 C0039	冊
		桐村英一郎=著 木地屋幻想 紀伊の森の漂泊民 四六判上製 / 168頁 / 本体2000円 / 978-4-909544-08-7 C0039	冊

ご注文は JRC へ / FAX **03-3294-2177** *返品条件付き注文扱い * JRC 経由ですべての取次への出荷が可能です